

2025 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

2026 年 3 月

城西国際大学

## 城西国際大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・ 経営情報学部 総合経営学科（中・高 社会、保健体育、高 公民）
- ・ 国際人文学部 国際文化学科（中・高 国語、社会、高 地理歴史）
- ・ 国際人文学部 国際交流学科（中・高 英語）
- ・ 福祉総合学部 福祉総合学科 子ども福祉コース（幼稚園）
- ・ 看護学部 看護学科（養護）

※一種免許状

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	5
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	10
III	総合評価	12
IV	現況基礎データ一覧	13

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

- (1) 大学名：城西国際大学
- (2) 所在地：千葉東金キャンパス（千葉県東金市求名1番地）
- (3) 学生数及び教員数（2025年5月1日現在）

学生数：経営情報学部	教職課程履修 115名／学部全体 1325名
国際人文学部	教職課程履修 40名／学部全体 617名
福祉総合学部	教職課程履修 33名／学部全体 519名
看護学部	教職課程履修 27名／学部全体 410名

教員数：経営情報学部	教職課程担当（教職・教科とも）3名	／該当学部全体 34名
国際人文学部	教職課程担当（教職・教科とも）2名	／該当学部全体 32名
福祉総合学部	教職課程担当（教職・教科とも）1名	／該当学部全体 38名
看護学部	教職課程担当（教職・教科とも）3名	／該当学部全体 32名

### 2 特色

2025年度は4学年215名の学生が教職課程を履修した。その内訳は中学校社会科教員免許課程29名、高校公民科教員免許課程22名、中学校・高校保健体育科教員免許課程93名、中学校・高校国語科教員免許課程10名、高校地理歴史科教員免許課程7名、中学校・高校英語科教員免許課程23名、幼稚園教員免許課程33名、養護教員免許課程27名となっている。

本学の教職課程は、建学の精神である「学問による人間形成」に基づき、幅広い国際的視野と高度な専門的知識・技能を兼ね備えた教員の養成を目的としている。教職支援体制として「教職支援室」を中心に、各自治体の過去問題集や教科書、教職関連資料を整備し、学生同士の情報共有と学習支援の拠点として活用している。さらに電子黒板等のICT機器を導入し、教育現場のデジタル化に対応できる実践的指導力の育成を図っている。

教員採用試験対策では、外部講師と本学教員が連携した「教員採用試験対策講座」を継続的に開講し、一次試験対策として教職教養・一般教養・専門教養・小論文指導・集団面接対策を実施するとともに、二次試験対策として模擬授業、場面指導、実技試験対策、個別面接指導を受験教科別に行っている。また、希望教科別の「教員採用模擬試験」を活用し、専門教科における実践的な対応力の強化を図っている。

加えて、地域および教育委員会との連携を一層推進し、「ちば！教職たまごプロジェクト」や「特別支援フレッシュサポート事業」等への参加を通じて、教育現場での実践経験の機会を提供している。さらに、卒業生への継続的支援として、採用試験対策講座や現職教員との情報交換会を実施し、在学生と卒業生が相互に学び合う教職コミュニティの充実を図っている。

これらの取組により、教員採用試験合格者数のさらなる増加と、地域社会に貢献できる質の高い教員の養成を推進している。

## 各学部の教職課程の理念等

### 2-1 経営情報学部

当該学部はグローバルとローカルの統一的な視点を持ち、「考える力」「気づく力」「創り出す力」と実行力豊かな「マネジメント力」を備えた教員を目指しています。国際的な視点を持ち、ビジネス領域に加え、公的機関や非営利組織、スポーツ・健康分野、消費生活、情報通信という様々なマネジメントを学ぶことで、幅広い視野と知識、管理能力を身につけた教員を養成します。

#### 目指す教員像

##### 教科名：保健体育科

保健体育の知識に加えて、少子高齢社会の中で、健康作りやスポーツの指導、そしてそれらの活動の組織的な運営に必要なマネジメント知識を有する教員を養成します。心と身体を一体としてとらえ、心身の健康の促進を図り、運動の実践をとおして、生涯にわたり健康を保持推進する知識と実践力を教授できる教員を養成します。

##### 教科名：社会科

国際的視野に立って社会に対する関心を高め、ビジネスやマネジメントの事例を活用して、社会科の地理・歴史・公民の各領域における学びの有用性をわかりやすく教授できる教員を養成します。また、日本の政治・経済・文化に関する最新の知識とともに、世界、とりわけアジアに関する基礎的教養を兼ね備えた教員を養成します。

##### 教科名：公民科

現代社会への深い洞察力を有し、国際的視野に立ち、問題意識を持って各種課題に取り組める教員を養成します。国際経済、国際経営を学ぶことで、グローバルマネジメント能力を養います。また、人間としての在り方、生き方について探求し、平和で民主的な社会を創造できる人材を育てる教員を目指します。

## 2-2 国際人文学部

当該学部は、グローバル化社会に対応すべく、言語力とグローバル・センスを有し、国際社会で強いリーダーシップを発揮できる教員の養成を目指しています。国際文化学科では国際的な視野と語学力、異文化理解力を有し、柔軟な発想と行動力を備えた教員を養成します。国際交流学科では実践的な語学力と国際交流のための知識とコミュニケーション能力を身につけた教員を養成します。

### 目指す教員像

#### 教科名：国語科

日本語学と外国語を学び、比較することによって、日本語とその表現の特質を客観的にとらえて教育に活かすことのできる教員を養成します。また、異文化理解能力をもとに他者理解の態度やコミュニケーション能力に優れた教員、古文や古典芸能などの言語文化を通して日本の伝統文化を次世代に伝えられる教員を養成します。

#### 教科名：英語科

英語を世界共通語として認識し、併せてさまざまな国の言語・文化に興味をもち、異文化理解を推進することができる教員を養成します。また、異文化を受容すると同時に、自文化に対する認識を深め、国際社会において自分の意見を発信することができる教員を養成します。

#### 教科名：社会科

現代社会をグローバルな視点でとらえ、総合的な知識と思考力を身につけ、それをわかりやすく解説することができる、良識ある教員を養成します。また、他者理解の力を身につけ、悩んだりつまづいたりする生徒に寄り添い、共に行動できる教員を養成します。

#### 教科名：地理歴史科

アジアをはじめ、世界の中での日本の課題と役割を踏まえて教壇に立つことができ、広く深い専門知識を身につけ、良識を持って行動できる教員を養成します。また、優しさと厳しさを併せ持ち、生徒の社会認識の確立と人間としての自立を支援できる教員を養成します。

### 2-3 福祉総合学部

当該学部は、国際大学において、世界共通の福祉の学びをとおして、異文化理解と受容力を習得し、グローバル化社会を担う教員の養成を目指しています。社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士などの国家資格で求められる福祉知識に加えて、多様な社会問題を主体的に考察し、さまざまな立場から現代社会を教授することができる教員を養成します。

#### 目指す教員像

##### 幼稚園教諭

幼稚園教員として、子どもの遊びについて音楽・図画工作・体育の各教科を統合した教育方法を実践から学ぶことをとおして、子どもの主体的な学びを適切に援助できる幼稚園教員を養成します。また、福祉の視点から、ソーシャルワークの知識を活かし、子育て支援の現場で様々な相談・支援活動にあたることのできる教員を養成します。さらに、専門教育（保育士）の知識を併せもつことで、保育・乳幼児教育に関する高度な知識と技術を兼ね備えた教員を養成します。

### 2-4 看護学部

当該学部は、児童生徒の心身の発達と社会との関係を理解し、健康を守り、発達を促進し、児童生徒が健やかな状態で学習活動を展開できるような支援者としての養護教員の養成を目指しています。健康と教育に関する専門的な知識と技術に加えて、薬学の知識、福祉の知識を有し、コミュニケーションによる対人関係構築能力を基盤とした思いやりのある養護教員を養成します。

#### 目指す教員像

##### 養護教諭

養護関連科目をとおして看護学の知識と技術を学び、実習科目をとおしてコミュニケーション能力を養うことで、児童生徒に寄り添い、傾聴し、理解しあい、助け合うことのできる養護の教員を養成します。また、課題を探究し、児童生徒を取り巻く環境の変化に応じて、他の教員と連携して役割の拡大に対応できる養護教員を養成します。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状〕

教職課程を設置する全学部の教員で構成される「教職課程運営委員会(年4回)」および、実務的協議を担う「教職実施委員会(年2回)」を組織し、全学的な運営体制を確立している。各委員会では、本学が養成する教員像の再確認、カリキュラムの点検・改善、教育実習および介護等体験の進捗管理、法令改定や文部科学省通知等の最新情報の共有を継続的に行っている。また、教務部教務課が主管部署として運営を担い、教員と事務職員が連携した体制のもと、履修学生の支援を含めた教職課程の円滑な実施を図っている。さらに、2017年度より『JIU教職課程年報』の発行を継続し、教員の研究成果や教育実践、教育実習報告等を広く共有することで、教職課程の質的向上と教育実習校との連携強化に寄与している。(資料1-1-1)

##### 〔優れた取組〕

教務課と教員が密接に連携する「教職協働」の体制が定着しており、年度初めに策定した活動計画を学長室へ提出することで、教職課程を大学全体の重点的取組として位置づけている。(資料1-1-2) また、Microsoft Teams を活用した情報共有体制を整備し、法令改定、教育現場の動向、採用試験情報、体験プログラム等をリアルタイムで共有することで、迅速な意思決定と教職員間の共通理解の醸成を実現している。加えて、『JIU教職課程年報』の継続的な発行により、教職員の研究・実践の蓄積を可視化するとともに、学生および教育実習校への情報提供の充実を図っている。

##### 〔改善の方向性・課題〕

教職員間における目的・目標の共有は十分に図られている一方で、その内容を学生自身の目標設定や主体的な学習意欲の向上へと結びつける点に課題がある。このため、教職課程オリエンテーションにおいて、卒業生教員の体験談や教育現場の実情を取り入れた参加型プログラムを充実させ、学生が具体的な教員像を描けるよう工夫する。また、FD・SD研修等を通じて、教職課程を全学的な重要課題として再認識し、教職員全体での意識共有を一層推進する。さらに、学生への情報発信の在り方を見直し、教職課程の魅力や意義を効果的に伝えることで、教員志望者の増加および学習意欲の向上につなげていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1 - 1 - 1 : 教職課程年報 (「情報公開」ページ内)
- ・資料 1 - 1 - 2 : 2025 年度 委員会活動計画書・報告書

## 基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状〕

本学は教職課程に関する組織として教職課程運営委員会を設置し、研究者教員・実務家教員が教育面を担い、教務部教務課が実務を担う協働的な運営体制を確立している。委員会を中心に課題の検討や情報共有を行い、教職課程の円滑な運営を図っている。また、教員採用試験の自治体別過去問題集や設置教科の教科書、教職関連雑誌等を整備した「教職支援室」を設置し、学生が自主的に学習できる環境を整えている。(資料 1 - 2 - 1) さらに、本学ポータルシステムである「JIU ポータル」を活用し、教職課程に関する各種連絡や授業評価アンケートを実施しており、学生が必要な情報を円滑に取得できる環境を構築している。(資料 1 - 2 - 2)

### 〔優れた取組〕

教職員がそれぞれの役割を分担しつつ、教職課程運営委員会における継続的な課題検討と情報共有を通じて、密接なコミュニケーションに基づく安定した運営体制を確立している。また、Microsoft Teams や JIU ポータルといった ICT を積極的に活用し、教員間の情報共有および学生への連絡を迅速かつ確実に行う体制を整備している。これにより、法令改定や教育現場の動向、各種手続き等に関する情報をタイムリーに共有できる環境が実現されている。

### 〔改善の方向性・課題〕

各クォーターで実施している授業評価アンケートについては、個々の授業改善に留まらず、教職課程全体の理念や養成する教員像を踏まえたカリキュラム改善へとつなげる組織的な活用が求められる。このため、アンケート結果の分析・共有方法を見直し、全学的な教育改善へ展開していく必要がある。また、教職支援室の利用が特定の時期に偏る傾向が見られることから、日常的な学習拠点としての活用を促進するための仕組みづくりが課題である。今後は、利用促進のための企画や導線設計の工夫を行い、学生が年間を通じて主体的に活用できる環境の整備を進めていく。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1 - 2 - 1 : 教職支援室
- ・資料 1 - 2 - 2 : JIU UNIVERSAL PASSPORT RX

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状〕

大学案内およびホームページを通じて、本学の教職課程に関する情報を積極的に発信し、教員免許状の取得が可能であることを広く周知している。入学者に対しては、新入生オリエンテーションにおいて教職課程に関心のある学生を対象に「教職課程オリエンテーション」を実施し、教職の魅力発信に努めている。さらに、在学生についても各年次にオリエンテーションを実施し、学習意欲の維持と事務手続きの確実な履行を支援している。また、『教職課程履修要綱』（資料2-1-1）を大学ホームページ上で公開し、学生が随時確認できる環境を整備するとともに、教職員が統一的な履修指導を行える体制を整えている。加えて、JIUポータルを活用して履修カルテを電子化し、学生の学習状況をリアルタイムで把握しながら、適切な履修指導を実施している。

#### 〔優れた取組〕

新入生オリエンテーションにおける対面での教職課程紹介から、オンデマンド配信による「教職課程オリエンテーション」へと接続し、より多くの学生に情報提供できる段階的な導入体制を整備している。さらに、「教職論」において教員免許取得までの4年間の学修プロセスを体系的に示すことで、学生が将来像を具体的に描けるよう工夫している。また、履修カルテと履修科目を紐づけて電子的に管理することにより、教員が学生一人ひとりの学習状況を的確に把握できる環境を構築しており、個別最適な履修指導の実現につなげている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

教員免許取得を目指す学生数のさらなる増加に向けて、新入生オリエンテーションにおける履修説明や教職の魅力発信の充実に加え、履修しやすい時間割配置など、総合的な工夫を継続的に検討する必要がある。一方で、看護師免許取得や留学など他資格・他活動との両立を理由として、進級時に教職課程の履修を取りやめる学生が一定数存在している。このため、履修中断の要因を丁寧に把握し、個々の状況に応じた指導や支援を充実させるとともに、履修負担の軽減や柔軟な履修モデルの提示など、大学全体として継続的な履修を支援する体制の強化が求められる。

#### <根拠となる資料・データ等>

・資料2-1-1：城西国際大学 - 教職課程 - 在学生の方

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状〕

教務部教務課において、各自治体の教育委員会や私立学校等から届く教員採用（募集）情報を集約し、Microsoft Teams による教員間共有や掲示スペース、必要に応じた個別連絡を通じて、学生へ迅速な情報提供を行っている。また、教職支援室を拠点として、特別講師を招聘した「教員採用試験対策講座」（資料 2-2-1）および勉強会を実施し、志願書類や小論文の添削、面接指導、筆記試験（教職教養・一般教養・専門教養）対策等を体系的に行っている。これらは対面とオンライン（同時双方向型）を組み合わせた形式で実施し、学生の利便性にも配慮している。さらに、希望教科別の「教員採用模擬試験」を実施し、その結果を学生および指導教員へフィードバックすることで、4年次の本試験に向けた意識の醸成と学習改善につなげている。

### 〔優れた取組〕

教職志望学生を対象とした「教員採用試験対策講座」および勉強会は、学生同士の相互刺激を生み出し、学習意欲やモチベーションの向上に大きく寄与している。また、教員として活躍する卒業生を招いた情報交換会を実施し、教育現場の実情に触れる機会を提供している点も特色である。これに加え、在学生のみならず卒業生に対しても個別指導や継続的な支援を行うなど、教職キャリアを長期的に支える体制を整えている。さらに、教員採用模擬試験の導入により、学生の實力把握と目標の可視化が進み、計画的な学習の促進と合格者数の増加が期待される。

### 〔改善の方向性・課題〕

教員採用（募集）情報の提供については、さらなる迅速化と精度向上を図るとともに、学生個々の志望や状況に応じたきめ細かな情報提供が求められる。また、「教員採用試験対策講座」および勉強会は任意参加であるため、時期によって参加者数に偏りが見られることから、内容や実施時期の見直し、過去の成果の可視化、広報の強化などを通じて参加促進を図る必要がある。さらに、卒業生の進路状況や教職就業後の動向の把握が十分でないことから、定期的なアンケート調査等を実施し、その結果を在学生への指導やキャリア支援の充実に活用していくことが求められる。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：教員採用試験対策講座

### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 〔現状〕

教職に係る授業科目は、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」、「文部科学省令に定める科目」から構成され、教職課程を有する各学部・学科に適切に配置している。（資料3-1-1）授業内容および評価方法はシラバス（資料3-1-2）に明示し、履修にあたって身につけるべき知識・技能を学生に提示している。さらに、教職課程運営委員会や学生による授業評価アンケート、教員による授業評価等を通じて、授業内容の継続的な改善を図っている。

##### 〔優れた取組〕

『教職課程履修要綱』において、単位修得や履修方法を明確に示すとともに、教育（養護）実習の受講要件として「3年次終了時点でGPA2.00以上」を設定することで、一定の学修到達度を担保し、教育現場にふさわしい人材の育成を図っている。さらに、教育（養護）実習に向けては事前面接や模擬授業（保育）を実施し、学生の実践的指導力や適性を多面的に確認・指導する体制を整えている。また、カリキュラム全体を通じて段階的な学修が可能となるよう設計されており、シラバスや履修要綱を通じて教職課程の体系性と質保証を実現している。

##### 〔改善の方向性・課題〕

教育（養護）実習の受講要件であるGPA基準を満たすため、各科目における学修支援や履修指導を一層充実させる必要がある。そのため、学生の履修状況を定期的に把握し、適切な時期に個別指導を行う体制の強化が求められる。また、教員採用試験の早期化（3年次受験や4年次早期受験）に対応するため、3年次からの「教員採用試験対策講座」および勉強会への参加をより効果的に周知・促進していく必要がある。さらに、各自治体における試験時期の分散に伴い、受験機会の増加とともに受験指導の長期化・個別化が進んでいることから、学生一人ひとりの進路に応じた柔軟かつ継続的な支援体制の構築について検討を進めていく。

##### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：学生便覧
- ・資料3-1-2：シラバス検索

## 基準項目 3 - 2 実践的指導力育成と地域との連携

### 〔現状〕

実践的指導力の育成に向けて、東金市教育委員会と連携した取組や千葉県・千葉市が実施する「ちば！教職たまごプロジェクト」への参加を学生に促し、地域の教育現場における実践経験の機会を提供している。さらに、教育委員会指定の「特別支援フレッシュサポート事業」への参画を通じて、特別支援教育の現場での体験機会も拡充している。また、介護等体験については、千葉県立東金特別支援学校の協力のもと実施しており、障害理解や支援の在り方を実践的に学ぶ機会を確保している。（資料 3 - 2 - 1）加えて、地域との連携の一環として、学習支援等の教育活動への参加機会の充実を図っている。

### 〔優れた取組〕

地域連携推進センターを中心に、全学的に地域と連携した教育活動を推進している点が本学の特色である。教職課程においても、教育委員会や学校現場と連携した多様な実践機会を提供することで、学生の実践的指導力の向上を図っている。これらの取組により、県外出身の学生が千葉県内の公私立学校の教員として採用されるなど、地域に根差した人材育成に貢献している。また、複数の現場体験プログラムを段階的に経験できる環境を整えていることも特徴である。

### 〔改善の方向性・課題〕

各種実践プログラムへの参加学生数は増加傾向にあるものの、年度によるばらつきが見られるため、安定的な参加者確保に向けた取組が求められる。このため、プログラムの意義や魅力に加え、教員採用試験におけるインセンティブ等について積極的に周知し、参加意欲の向上を図る必要がある。また、東金市教育委員会との連携をさらに深化させ、学習チューター制度の再活性化や近隣校での実習・ボランティア活動の拡充など、大学と地域双方にとって有益な連携体制の構築を検討していく。さらに、学生が早期から教育現場を経験できる仕組みを強化し、継続的かつ段階的な実践力育成につなげていく。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3 - 2 - 1：教職インターンシップ・学習チューター制度

### Ⅲ 総合評価

本学は1992年の開学初年度に課程認定を受けて以来、建学の精神に基づき、地域社会および国際社会に貢献できる教員の養成に継続的に取り組んできた。入学当初から公立学校教員を志望する学生も多く、在学中の体系的な支援と学生自身の努力の積み重ねにより、千葉県をはじめとする各自治体の教員採用試験において着実な合格実績を維持している。近年では、採用試験の早期化に対応した指導の充実により、現役合格者が増加するとともに、卒業生の合格実績も伸長しており、本学の教職支援は卒業後も継続する「教職コミュニティ」として定着している。

また、少子高齢化やICT教育の進展といった社会構造の変化に対応し、各教員が授業内容の工夫を行い、情報活用能力やICT活用指導力の育成に資する教育を展開している。加えて、「JIUポータル」を活用した履修カルテの電子化や教員採用模擬試験の導入等により、学修成果の可視化と学生の主体的な学びを支える環境整備が進んでいる点は評価できる。これらの取組により、教職課程は学生にとって重要な進路選択の一つとしての位置づけを一層強めている。

一方で、教職課程の履修を途中で取りやめる学生へのきめ細かな支援や履修指導のさらなる充実、各種体験プログラムや「教員採用試験対策講座」「勉強会」への参加促進については引き続き課題として残されている。これらに対応するためには、学生一人ひとりの状況やニーズに応じた個別支援の強化とともに、教職の魅力や各種取組の意義を効果的に発信し、学習意欲を喚起する仕組みづくりが求められる。

今後は、自己点検・評価の結果を基にPDCAサイクルを一層実質化し、東金市教育委員会をはじめとする地域社会との連携をさらに深化させることで、理論と実践を往還する教育の質的向上を図る必要がある。これにより、学生が卒業後の進路として教職を主体的に選択し、教育現場において継続的に活躍できる人材の育成に向け、全学的な支援体制の強化と教育環境の充実を推進していく。

#### IV 現況基礎データ一覧

大学名称	学校法人城西大学 城西国際大学				
学部・学科名	国際人文学部	国際文化学科			
		国際交流学科			
	観光学部	観光学科			
	経営情報学部	総合経営学部			
	メディア学部	メディア情報学科			
	薬学部	医療薬学科			
	福祉総合学部	福祉総合学科			
		理学療法学科			
看護学部	看護学科				
1.卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数（2025年度）					
①	卒業生数	1,227			
②	①のうち、免許状取得状況	58			
③	①のうち、就職者数	58			
④	①のうち、教職に就いた者の数	17			
⑤	③のうち、正規採用者数	9			
⑥	③のうち、臨時任用者数	8			
2.教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	104	70	203	46	5